

「地域をまるごと診る」ことをめざして

矢藤 有悟

2年前は週半日、去年は週1日、今年は週2日と少しずつ日数を増やしながら川上村診療所での外来診療、訪問診療を担当しています。

前任の伊澤和洋所長までは診療所長が常勤している体制でしたが、2022年度以降は医師の継続的な派遣などの諸事情から、曜日ごとに異なる医師が担当しています。現在の体制ならではの経験がこの1年間で得られました。

川上村診療所での担当日以外は、小海分院で入院患者さんや救急外来の診療に当たっています。診療所で診きれないような病状変化があるときや、精密検査が必要なときに、分院で入院中も引き続き担当させていただき、その後自宅に帰ったあとも担当させていただくことができました。専門的な治療が必要な場合には佐久医療センターなどの専門医に紹介させていただきますが、総合診療科医として対応可能な範囲では、村での生活のご様子をふまえて入院・外来・在宅の場面で「ひとりの患者さんをまるごと診る」ことのおよさがあるかな、と感じています。



川上村の山菜祭りにて



男山から望む川上のレタス畑



男山にて同僚と（筆者左）

ただし、村にいる日数が少なく十分に地域のことを理解できていないかもしれないとの不安もあります。今後は、感染症流行前の日常を取り戻しつつある村の生活に溶け込んでいき、「地域をまるごと診る」ことをめざしていきたいと思います。